



▲ 車椅子でアート作品を制作（40周年記念事業にて）

【令和4年度 主な取組み】

- 新型コロナウイルス感染症発症時の対応を検証し、対策を強化
- 介護機器やICT機器を積極的に活用し、先進的なサービスを提供
- 大学や企業等との多様で新たな連携を推進し、特色ある施設運営に活用
- 施設ごとの魅力発信チームを発足し、法人のブランディングを推進
- 会計監査人導入等内部管理体制の強化
- 府立の社会福祉施設の将来像について、京都府との議論を推進

私たち
京都府社会福祉
事業団は、
設立45周年を
迎えました



法人設立 45 周年を迎えて

この度、5月1日付で理事長に就任いたしました中本晴夫です。何卒よろしく申し上げます。

本年8月2日、(福) 京都府社会福祉事業団は法人設立 45 周年を迎えました。

この間社会福祉を取り巻く環境は大きく変化してまいりましたが、当法人の設置目的である「京都府における社会福祉事業の増進に寄与する」という原点は不変であります。今後とも、この原点を常に意識し、役職員一丸となって利用者お一人おひとりの満足度の向上を追求し続けてまいりますので、引き続きの御厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 **中本 晴夫**

福祉・医療の専門家集団が一人ひとりをサポートしています

【 京都府社会福祉事業団 とは？ 】

京都府立の社会福祉施設として、子どもからお年寄り、障害がある方や生活課題を抱える方など、それぞれが持つ、さまざまな事情に寄り添いながらしっかりとサポートしています。幅広い福祉施設を運営している強みを活かして、施設間で相互に連携しつつ、積み重ねてきた歴史の輪を未来へつないでいきます。



次ページからは **各施設のリーダーの声を紹介**

Instagram でも日常を発信しているので QR コードからご覧ください

心身障害者福祉センター

事業内容 障害者支援施設／
一般・特定相談支援事業／
体育館／病院
所在地 城陽市中芦原



令和4年度を迎えて

施設長からの声

施設のめざす姿やPRポイントについてご紹介します。

施設長の声



副所長 中西 文章

「やさしさ」と「総合力」で歩み続ける

心身障害者福祉センターは、入所や生活訓練サービスを提供する障害者支援施設、診察・治療から機能回復訓練まで切れ目ない医療で定評のリハビリテーション病院、障害者スポーツ等をサポートする体育館を併設する施設です。昭和・平成・令和と時代は変化してきましたが、常に利用者に寄り添ったサービスを提供しています。

節目の年を契機にこれからも、多職種の職員が力を合わせ、各施設の「強み」を活かしつつ、多様な福祉・医療ニーズに応えていくセンターでありたいと思います。



障害者支援施設 (あしはらの丘)

施設長の声



障害者支援施設長
清水 努

地域や利用者ニーズに応じたサービス

障害者支援施設あしはらの丘では、常時介護を必要とする障害者を中心に、24時間の支援をしています。同種の施設は、京都府内に8施設、利用者数では400人不足であることを常に念頭に置いています。京都府立施設として、現に入所されている方はもとより、地域からの短期、日中通所の受入れ、施設から地域への送り出しが私たちのミッションです。



日中活動や利用者さんの
創作作品も公開中！



SINSYO1488

PR point

日中活動の充実に向けた取組み

利用者の日中活動の更なる充実を目指し開始した「ワークセンター ASHIHARA」。野菜作りなどの農園活動や、陶芸や手芸品などの制作、それらの販売を行う施設内売店「ショップあしはら」など、活動内容をさらに充実させ、利用者に活動を通じてものづくりや働くことの喜びを感じてもらえるよう取り組んでいます。

附属リハビリテーション病院

施設長の声



附属リハビリテーション病院院長
徳永 大作

「患者さん目線の治療」をめざして

リハビリテーション病院では、「患者さん目線の治療」をキーワードに、日々の診療を行っています。整形外科では人工関節や関節形成を中心とした手術を行い、神経内科による高次脳機能障害の入院治療も成果をあげています。精神科、歯科も定評ある診療を行っています。

パラパワーリフティング NTC への医科学支援も軌道に乗り、2024年パリ・パラリンピックが楽しみになってきました。コロナ禍を乗り越え、活気と思いやりのある医療を届けるため、日々鍛錬しています。



専門性向上に向けた勉強会や
自然豊かな近隣の魅力スポットも
ご紹介！



SINSYORIHAI488

PR point

地域に根差した医療を提供

京都府南部における「高次脳機能障害対応医療機関」として、専門外来を設けリハビリを通じた社会復帰支援を行っています。また、患者様やご家族へのきめ細やかな対応、神経内科+精神科の連携による手厚いサポート体制など、地域の方々にとっての身近な病院として、寄り添い支える医療を提供しています。

洛南寮

事業内容 養護老人ホーム／救護施設
所在地 京田辺市大住仲ノ谷 14-1



施設長の声



寮長 則枝 勝也

「もっといい支援はないか」の視点を

洛南寮は、高齢の方が自分らしく健やかに暮らすことをサポートする養護老人ホーム、日常生活を送ることが困難な方の最後のセーフティーネットとされる府内唯一の救護施設が併設される全国でも珍しい施設であり、その特色を活かすとともに、法人基本理念にある「利用者の権利擁護」を支援の軸として掲げ、常に「もっといい支援はないか」の視点を大切にし、利用者・職員共に笑顔溢れる洛南寮に成長していきたい思います。

PR point

一時保護機関として緊急入所の積極的受入

養護老人ホーム

DVや虐待被害等により緊急入所が必要な高齢者を迅速且つ積極的に受け入れるなど、シェルター及び一時保護機関としての役割も果たしています。

精神科病院と連携した包括的なサポート

救護施設

普段より利用者支援において関係のある精神科病院の地域連携室と情報や課題を共有するなど連携強化を図り、精神疾患を抱える利用者への包括的なサポート体制を構築しています。



毎月、お誕生日会では施設長と記念撮影！



RAKUNAN0415

東山母子生活支援施設

事業内容 母子生活支援施設
所在地 京都市東山区清水四丁目 185-1
京都府家庭支援総合センター 3階



施設長の声



施設長 岡本 稔子

母子の安心した生活に向けて

同法人にありながら、勤務経験がなかった母子生活支援施設。昨年4月に着任した時は不安でいっぱいでしたが、可愛い子どもたちの笑顔に癒やされ、お母さんたちの涙にもらい泣きしながら、あっという間に1年が過ぎました。やっと求められる施設像が見えてきたように思います。救護施設、身体障害者支援施設での経験を活かし、母子が安心して暮らし巣立っていくお手伝いをしていきたいと思います。

PR point

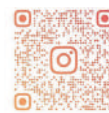
心理的ケアや中高生支援の充実

母子の心の安定と子育ての不安解消に向けて心理療法担当職員を配置し、心理的ケアの充実を図っています。

また、新たな取り組みとして思春期の児童の居場所づくりを目的とした「中高生おしゃべりカフェ」を開始。ほっこりくつろげる雰囲気の中、仲間同士で交流したり、悩みを相談するなど、中高生にとっての憩いの場となっています。



四季折々の風景や生活を発信しています！



HIGASHIYAMA1201

視力障害者福祉センター

事業内容 障害者支援施設／特定相談支援事業
所在地 京都市左京区下鴨森本町 21 番地



施設長の声



所長 松本 勅

国家資格取得に向けた教育充実と地域奉仕活動

視覚に障害のある方々の自立を支援するため「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師」の国家資格取得の実現を目指し、より一層の教育の充実に努めます。

また、今年度は利用者体験見学会を2回実施し、利用者増を図るほか、臨床実習における外来治療や地域でのあん摩奉仕を実施し、地域住民の健康増進に寄与できるよう邁進いたします。

あん摩奉仕

11月4日(金) 10:50～15:10

無料

申込受付中

年に一度、国家資格取得をめざす生徒のあん摩技術向上と地域の皆さまへの感謝の気持ちを込めて、「あん摩奉仕」を行っています。ぜひ一度体験してみませんか？

受付期間 10月14日(金) 17:00 まで

お問い合わせ 075-722-8203

下鴨 # あん摩でリラックス



申込方法詳細はこちら



桃山学園

事業内容 障害児入所施設／児童養護施設
所在地 京都市伏見区桃山町遠山 50



施設長の声



園長 岩本 俊也

真の「こどもまんなか施設」をめざして

桃山学園では、『子どもが育つ環境を整える施設、子ども本人が望む暮らしを保障する施設』を基本方針に日々運営しています。また、来年4月からこども施策の一元化を行う「こども家庭庁」が設置されることから、同一敷地内に障害児入所施設と児童養護施設がある他に類を見ない大きな特徴を活かしていくことが期待されています。

中期運営計画の多様な連携による特色ある取組みでもある「障害児入所施設×児童養護施設の連携」も加速しつつ、私たち職員は常にこどもたちの最善の利益を考え、寄り添い、意見を聞き、真の「こどもまんなか施設」をめざしていきます。

PR point

障害特性に応じた小規模グループケアを開始

障害児入所施設

障害特性に応じたグループごとの個別支援を推進し、さらにきめ細やかな支援に向けて、人員体制や設備も整えることで、小規模グループケアの本格的導入を開始しました。

高校卒業後の進学や就労に向けた支援

児童養護施設

高校卒業後の進学に向けた手厚い学習支援や、京都中小企業家同友会と連携した職場体験実習により、人との交流機会を得ながら自立に向けた支援をしています。



子どもたちの元気な日常と日々成長する姿をお届け！



MOMOYAMA3136

令和4年度を迎えて

施設長からの声

施設のめざす姿やPRポイントについてご紹介します。

こども発達支援センター

事業内容 児童発達支援センター／
放課後等デイサービス／
保育所等訪問支援／
障害児相談支援事業／診療所

所在地 京田辺市田辺茂ヶ谷 186-1



施設長の声



所長 平井 清

医療・福祉・教育と連携し、安心できる支援体制を

発達障害に対する医療はまだ全国的に不足していて、京都府南部も例外ではありません。そのような中、7月より精神科常勤医1名が増員され、患者様のご不便やご心配の解消につながるものと期待しています。同時に、地域の医療機関や福祉、教育の関係機関とも連携し、患者様にいち早く支援が届き安心してもらえるような体制を作っていきたいと思っています。多くの職種がいる当センターなら、豊かな発想で様々な課題に対処していけると信じています。

PR point

利用者ニーズを踏まえた支援の提供

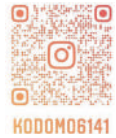
豊富な経験を持つ専門スタッフが連携しながら療育、診察、リハビリ等を行い、子どもの健やかな成長と発達をサポートしています。

療育においては、親子通園を基本としつつ保護者の就労状況を踏まえた登園頻度に対応しています。また、年長児の新規受入の充実や保育所等訪問支援事業との連携等により、就学前後のフォローを行っています。

放課後等デイサービスでは、SST（ソーシャルスキル・トレーニング）を導入した支援や心理師によるアセスメントの実施等、専門性の高い支援を行っています。



療育やセラピーの様子を
発信していきます！



発達障害者支援センター はばたき

所在地 ①発達障害者支援センター 京都市伏見区竹田流池町 120
はばたき (京都府精神保健福祉総合センター内)

②発達障害者支援センター 京都府京田辺市田辺茂ヶ谷 186-1
こども相談室 (こども発達支援センター内)



施設長の声



センター長 渡邊 由佳

京都府における発達障害支援システムの構築に向けて

ご本人やご家族、また関係機関への相談支援を柱に、府民の皆様への普及啓発のための発達障害講演会や、支援者及び医療職等専門職を対象にした研修や機関支援、保護者（家族）に向けた研修や交流会等、多様な事業を行っています。

7名と少人数の職場ですが、それぞれが専門性を持ち、自己研鑽に励み仕事に活かして活躍しています。今後も京都府における発達障害支援のシステムを構築していけるよう努めてまいります。

PR point

関係機関へのスーパーバイズや保護者サポート

京都府における発達障害者支援の中核的施設として、府内6圏域の支援センターへの巡回相談及びスーパーバイズ、また、依頼を受け機関コンサルテーション等を実施し、京都府内における発達障害相談体制の強化をめざしています。また、発達障害児支援拠点として発達障害のある子どもを育てる保護者のサポートにも力を入れています。



▲発達障害者支援センター
はばたき



▲こども相談室

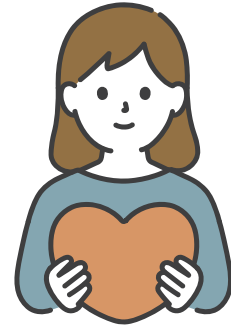
中期運営計画の3つのビジョンに沿って、6施設1事業が連携しながら取り組みました。

vision

01 利用者一人ひとりの満足度の向上を追求し続ける事業団

安心・安全を確保する取組み

- 新型コロナウイルス感染症への感染発生を受け、「新型コロナウイルス感染症検証委員会」を設置
- 利用者サービスの向上と職員の業務負担軽減に向けて「介護・IT機器導入による検討チーム」を始動



vision

02 地域や企業、大学など様々な主体とともに歩み続ける事業団

KSJ

- × **大学** 京都女子大学とのリカレント協定事業を結び、講義・施設見学を実施
- × **企業** 接遇向上に向けて、茶道裏千家淡交会で「おもてなしの心」を学ぶ茶道体験研修を実施
- × **福祉事業所** 一般社団法人「暮らしランプ」とコラボし、リクルート向けのノベルティグッズを作成
- × **KSJ** **子ども発達支援センター × 発達障害者支援センター**
放課後等デイサービスが行う、SST（ソーシャルスキル・トレーニング）を導入したプログラムへ発達障害者支援センター職員が介入・助言

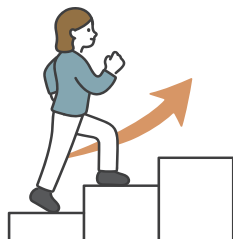


vision

03 人・財力を高め、強固な組織へと進化し続ける事業団

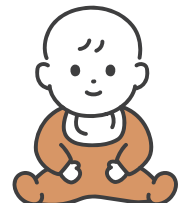
人材確保・人材育成

- 「内定者プログラム検討チーム」を新設し、内定者フォローを強化
- SNSを活用し、法人全体に加え、各施設においても魅力発信を推進
- 法人共通キャリアパスを精査し、階層を細分化するとともに給与制度（階層）にも連動



働きやすい職場づくりの取組み

- 情報共有ツール「ガルーン」を本格導入し、職員間でのスムーズな情報共有・連携強化を推進
- 「子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言」を行い、新規の取組みの推進や、不妊治療休暇制度の拡充等、既存制度も充実



数字で見る KSJ*

職員数

321名



年次有給休暇取得率



57%

(昨年度:54%)

仕事とプライベートを両立できるよう、働きやすい環境づくりに努めています。

女性の育休取得率

100%



女性役付職員の割合

62.5%

(昨年度:57%)



年間休日日数

127日



新規採用人数
(R3 4/2 ~ R4 4/1 採用者)

11名

インターンシップ
実習受入人数

192名

個別説明会・就職フェア参加者数



125名

(昨年度:142名)

個別説明会、就職フェアにおいて、対面とオンラインを併用しながら法人の魅力を発信しました。

実践・研究発表会



発表演目数

7題

参加者数

60名

毎年、各施設の日々の取組みや専門的な内容を発表する実践・研究発表会をオンラインで開催し、OB職員や内定者へも広く参加いただきました。

法人内研修受講者数

1,120名

(昨年度:672名)

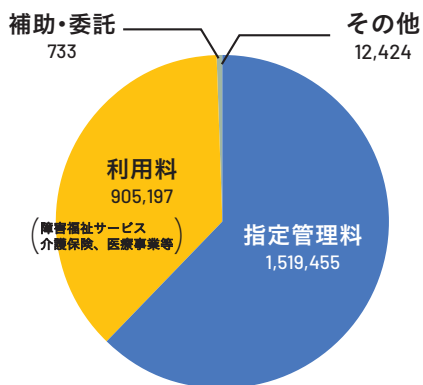
研修動画配信サービスや、ライブ配信型のオンライン研修を活用し、昨年度の約1.7倍になりました。

*平成4年に決定した愛称 **KSJ** を少しリニューアルをして今年度もスタートしています！(希望 **さわやか** 事業団) → (希望 **しあわせ** 事業団)
※ふれあい 96号 (2022年1月号) 理事長メッセージより引用

決算報告

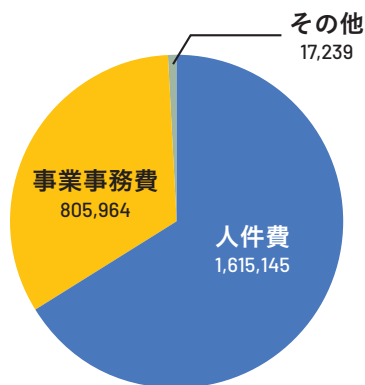
令和3年度収支内訳

収入の内訳



(単位:千円)

支出の内訳



(単位:千円)

編集後記

機関紙ふれあいは、職員間コミュニケーションの場として長年編集してまいりましたが、今号よりコンセプトを少し変更し、法人の取組みや魅力をよりPRできるツールとすべく紙面づくりに努めたいと思います。多くの方々に、ご覧いただけますようPDF版をホームページにも掲載し、SNSによる発信も行う予定です。引き続き、京都府社会福祉事業団の機関紙ふれあいを、どうぞよろしくお願いいたします。



[Instagram]



[Twitter]



[YouTube]



[Facebook]